常磐東小学校　校長だより

常なる磐

つねなる　いわ

令和３年２月２６日(金)

◇　【環境整備】は続く❶

120 年記念式典が終わっても、本校の環境整備は続いている。

グラウンド整備もその一つ。これと並行していくつかの整備進行中である。
その一つに、４月から行っている「ウメノキゴケの除去」がある。

桜階段のソメイヨシノについては７月半ばに作業を終えた。落葉でむき出しとなった漆黒の幹は、コケが取り除かれた証だ。一方、梢の未処理のコケ（赤〇）が一際目立つ。蕾が膨らみ始める前に何とかせねばならない理由がある。

以前、校長だよりの紙面で、「ウメノキゴケは無害」と記載したことがある。丸呑みしていたネット情報だが、付け加えが必要なようだ。
「ウメノキゴケに害はないが、コケの付着で『梢の生長を抑える』『梢の生長を止める』」
玄関前のドウダンツツジの現状から推し図るに、こちらがより正しいのではないかと思っている。

本校自慢のドウダンツツジであるが、一点、気になっていたことがある。
向かって右端の株（青〇）だけがかなり弱っており、葉の数も少ないことから立ち枯れを心配していた。

ウメノキゴケは、ドウダンツツジにも例外なく付着していた。右端の株の付着量は特に多く、梢までびっしり。
水の冷たさが凍みる 11 月だったが、校務主任の加藤先生が高圧洗浄機で丁寧に取り除いてくれた。するとどうだ、２月。弱った株が息を吹き返したかのように、他株と同様に蕾を付けた。

近年、ウメノキゴケは、命名由来の「梅の木」にも被害を及ぼしているようだ。

植栽「トキワヒガシ」の法面にも梅の木の立ち枯れ➡切断の痕跡が残る。
さらに、プール周りの卒業記念樹「梅ちゃん里の梅の木」（※昭和 63 年度卒業生寄贈）20 本も、4 本が立ち枯れ、残存する 16 本の梅の木も衰弱が激しい。
ここ数年は、子供たちが収穫する梅の量が、ぐんと減っているとも聞く。

冷え込みの厳しい 1 月であったが、「梅の木が蕾を付ける前に」と、加藤先生と山田校務員が、梅の木のウメノキゴケ除去に対応してくれた。

樹高がそれほど高くない梅の木であるため、梢まで丁寧に取り除かれた校内の梅の木は、早速、蕾を膨らませ、ちらほらと花を咲かせている。
昨年の開花状況を知らないため、何とも判断がつかないところではあるが、漆黒の幹と枝、紅白の花は生気を放っているように見える。

ドウダンツツジ、そして梅の木のウメノキゴケ除去対応後の状態変化から、ソメイヨシノについても、梢の方まで手をかける必要性を感じている。
ただでさえソメイヨシノは傷みが激しい。

「桜の木は切らない方がよい。なぜなら、桜の木は切った部分から傷んでいく」と聞いたことがあるが、まさにそうである。
生長に伴う枝の剪定で各所が切断されたのだろう。その部分から水が入り、樹木を傷めていく。樹皮が剥がれ、幹の裂けも各所にある。
かなり弱っているソメイヨシノだが、まだ、何とか頑張っている。

桜の寿命は 50 年と言われる。まだ移転新築 34 年、あと 16 年はもたせたい。

ソメイヨシノも蕾を付け始める手前まで来た。さて、脚立を引っ張り出して頑張ろう。4 月に迎える入学式・始業式、昨年以上の開花を期待して…。